

得る範圍の作品が收められてゐることを以つて満足せねばならない。唯第四十五圖「秋景」(今村繁三氏藏)は一八九三年の年記があり、晩春の麥收の風景を寫したものであり、歸朝迫つた頃歐洲に於いて描かれたものであつて、其畫題を「秋景」とせるは誤である。(隈元)

四六倍判 圖版 網版七四葉 原色版二葉 昭和十年七月廿五日 久米晴子編並發行
半七田中製版所印刷 非賣品

鎌倉社寺めぐり

相澤善三著

本書は鎌倉に杖を曳き歴史を尋ね古蹟を探らんとするものにとつて、重寶な手引草となるものである。鎌倉を中心としてその近郊の諸社寺に就て、各所藏の國寶及び什寶類を網羅し、之に附するに同地方の史蹟と神奈川縣下の國寶所藏の社寺、其他著名な神社を列舉すると共に阪東三十三番觀世音菩薩札所の寺院及び神奈川縣内に在る古鐘の調査をも併而收載しあるは此種書目の目的に適うたものと云ふべきであらう。本文は旨と客觀的事項のみを記載したのは寔に當を得たものと云ふべきも、圖版の説明の稍、不統一なるを遺憾とする。これは形狀法量手法製作年代等を簡明に列舉すべきではなかつたらうか。諸社寺の配列を遊覽の順路に收め、また近郊の社寺には交通を明記せる等周到なる用意の窺はれて、著者の勞を多とするものであるが、尙望めば、この順路の略地圖を添附して欲しかつた。(菅沼)

四六判 二二六頁 圖版五三葉 昭和十年八月 鎌倉同人會發行 定價一圓二〇錢

支那碑碣形式ノ變遷

關野貞著

本稿は關野博士が今夏文部省主催書道講習會に於いて擔當すべく豫定せられたるを病篤くして自ら講壇に立つの不可能となるを知らるゝや、男克氏に口述

書

評

せられ之を代誦せしめられたるその草稿で今や克氏の手によつて上梓せられ、記念として博士生前の知友に贈られたものである。

内容は「石碑の起原」より説き起して「漢碑の形式」、「三國及南北朝碑の形式」「隋唐碑の形式」の項を擧げて此等碑碣の發展變遷を概説せられたもので、前記の諸項に加ふるに緒論結尾を以つてする前後六章、本文貳拾九頁、並に卷末圖版五十一圖及び附録「支那漢代より唐代に至る碑碣表」六頁より成る。

是を以つて支那碑碣形式の變遷の凡てを盡したるもの、説いて剩すところ無しとは云ひ難いが、今、本稿の目的が通俗講演に過ぎなかつた上に、著者の病牀に在つての口述によるものなるを顧る時、寧ろ然あるべきを思はざるを得ない。而も簡にして要を得、略にして疎ならざる記述はよく本題の根幹を示され、たもので更に卷末附録の碑碣表は九十七個の支那碑碣をその書者、所在、形式、年代、によつて分類表示したもので博士生前の調査、研究の一端と解せられるが、以つて後學を益するところ尠からず、本書の上梓は比較的類書の少い斯方面の研究に資することあるべきを思ひ編者の好意に敬意を表する。

事は少しく餘事に屬するかも知れぬが、本書結尾の項に於いて、著者は我國の過去に石碑の製作の振はざりし事實を憾みとし、將來斯種の藝術の盛んならんことを望んで言を結ばれて居る。今や博士は蔽ふべからざる功勳を學界に貽して逝かれた。その絶稿の本書なることを思ひ合せこれが奇縁に驚くと同時に本書の頒布の一層意義深きを感じ、博士の學徳を想起して感懷の新たなるを覺ゆる次第である。(豐岡)

四六倍判 著者照影一葉 略歴一頁序文二頁 題詞三頁 本文二九頁 圖版五一圖一
四頁 附録六頁 映入 昭和十年九月一日 座右寶刊行會發行 非賣品

古代佛像の人類學的研究

北村直躬
山崎達二著

本邦古代佛像の主要なるもの九十餘體に就き人類學者の立場から詳細な測定

二五

を行つた結果の報告である。飛鳥より平安初に至る各時代に於て大陸傳來の人の種形態が日本人の體質に改變されて來た跡を數字的正確さを以て證明した、と云ふ所に著者の意圖があり之を基礎にした彫刻史的様式發展を説くものである。研究方法としては専門家が人體測定に用ひる計測法に依つて佛體各部の長さを測り、相互の比例示數を算出して比較統計すると云ふことを主としてゐる。而して書名から想像される如きアジア諸民族の人的特質を詳しく諸佛像中に搜索する等の試がなされてゐる譯ではない。

著者の聰明固より我が佛像が泰西彫刻の寫實とは類を異にすることに氣付かぬではないが、吾人の見方では如何に寫實に進みたりとは云へ多分に理想的であり非實人的である佛像に、斯る精密な生體計測法の適用が方法として果して妥當か否かは之を疑はざるを得ない。従つて數字の正確なるに比しては得られたる結論の効果を期待し難く思ふものである。

ともあれ斯る試みは佛像研究上最初のものとして著者の勞を多とすべく之によつて數多の實測的數値を提供された點には裨益される所少くない。(青山)

四六判 本文二一九頁 圖版網版二〇圖 挿圖網版一九圖 昭和十年九月二十日 岩波書店發行 定價貳圓

美術研究所時報

美術懇話會は九月二十八日美術研究所に於て例會を開催し、子爵松平定晴家所藏の文晁筆公餘探勝其他の風景寫生圖を展觀して、美術研究所囑託菅沼貞三氏の解説を聞いた。

寄贈圖書

國寶略説(昭和九年) 文部省宗教局

文部省宗教局

皇室博物館年報(昭和九年) 皇室博物館 文部省考古學部 第九輯 東京帝國大學文學部 研究室集品 考古圖編 國野 貞著	支那碑碣形式ノ變遷 國野 貞著	法隆寺國寶保存工事報告 第一冊 法隆寺國寶 改訂概觀歐洲藝術史 關伊能著	名作屏風繪展覽會圖錄 一、二 (皇室博物館圖錄四ノ五・六)	古代佛像の人類學的研究 北村直躬著 石崎達二著	三寶繪 育徳財團	昭和九年度東洋史研究文獻類目	史迹と美術 五八	文藝學 三ノ九	汎工藝 八月	帝國圖書館報 二八ノ四五	新建築 一一ノ八	書畫骨董雜誌 三二七	帝國工藝 九ノ九	南畫鑑賞 四ノ九	浮世繪藝術 四ノ九	建築雜誌 四九ノ六〇三	工藝ニユース 四ノ九	雙杉會誌 一ノ四	阿土別卷三	現代美術 二ノ六	皇室博物館	東京帝國大學文學部	關野 克氏	正木直彦氏	男爵 關伊能氏	皇室博物館	岩波茂雄氏	育徳財團	東方文化學院 京都研究所	學校美術 九ノ九	美術 育 一一ノ九	建築研究 七ノ九	美術 一〇ノ九	みづゑ 三六七	博物館研究 八ノ八	國立北平圖書館館刊 八ノ四	繪畫教習 三ノ九	美術評論 四ノ六	燕京學報 一七	東方學報 東京第五	國際建築 九	塔影 一一ノ九
--	-----------------	---	-------------------------------	----------------------------	----------	----------------	----------	---------	--------	--------------	----------	------------	----------	----------	-----------	-------------	------------	----------	-------	----------	-------	-----------	-------	-------	---------	-------	-------	------	-----------------	----------	-----------	----------	---------	---------	-----------	---------------	----------	----------	---------	-----------	--------	---------